**様式 C-19**

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　５月　８日現在

**研究種目：　基盤研究（C）**
**研究期間：2007～2008**
**課題番号：　19530476**
**研究課題名（和文）　在日ムスリムの社会経済的活動と宗教的ネットワークに関する調査研究**
**研究課題名（英文）　Socio-economic Activities and Religious Network of Muslims living in Japan**

**研究代表者**
**店田　廣文（TANADA, Hirofumi）**
**早稲田大学・人間科学学術院・教授**
**研究者番号：20197502**

研究成果の概要：
本研究では、従来のわれわれの調査成果をさらに補強する研究成果が得られ、滞日ムスリムは日本社会に適応し、生活満足度が比較的高く生活基盤も安定してきたこと、滞日ムスリム・コミュニティが成熟期に入りつつあると言うことが、改めて本研究によって明らかとなった。ムスリムの子ども教育調査や滞日経験を有するムスリム調査、モスク調査報告も貴重な成果であるが、日本初のモスク代表者会議を開催し、将来の滞日ムスリム・コミュニティと日本社会の関係形成に関する研究へと展望が開けたことが重要である。

交付額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2007 年度 | **2,000,000** | **600,000** | **2,600,000** |
| 2008 年度 | **1,500,000** | **450,000** | **1,950,000** |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | **3,500,000** | **1,050,000** | **4,550,000** |

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：国際社会・エスニシティ、在日外国人、イスラーム、ムスリム、移民、ネットワーク

## １．研究開始当初の背景

1990 年頃からの外国人登録人口の増加とともに、ムスリムの登録外国人数のみならず日本人ムスリムの数も徐々に増加してきた。イラン・パキスタンなどからの入国者は、出入国管理政策の改定により一時に比べ激減したが、研修、留学等の資格による東南アジアからの入国者が増加し、外国人ムスリムと日本人との婚姻なども加わって滞日ムスリム人口全体としては漸増傾向にある。2006 年末現在のムスリム人口推計は、約１２万人前後であるが、これに伴って、日本各地にモスクやハラール・ショップ（イスラームが認定した食品等の販売店）が開設され、エスニック・メディアとしての雑誌や新聞なども発刊されている。

滞日ムスリムを対象とした社会調査としては、これまでイラン人を対象とした東京大学医学部『上野の街とイラン人―摩擦と共生

―』(1992 年)、筑波大学社会学研究室『在日イラン人―景気後退下における生活と就労』（1994 年）があるが、これらは外国人労働者問題研究であり、滞日ムスリムに焦点を当てた社会調査とは言いがたく、その他は桜井啓子『日本のムスリム社会』(2003 年)などインタビュー調査によるものが散見される程度であった。この背景には、滞日ムスリムの外国人人口に占める割合の少なさがあるが、世界人口の 20%近くがムスリムである現実、更には滞日ムスリム人口の漸増という状況からみれば、総合的な実態調査の実施は喫緊の課題であった。本調査は、(1) 滞日ムスリムの生活実態の把握、(2) 滞日ムスリムが形成する（越境する）ネットワークの解明、(3) 日本社会への適応状況、(4) 日本人社会と外国人ムスリムとの交流実態、(5) 日本人と滞日ムスリムの共生にとっての必要条件の探求、という以上の 5 つを調査目的として設定し、2005-2006 年度科学研究費補助金基盤研究「関東大都市圏における在日ムスリムの社会的ネットワークと適応に関する調査研究」により調査を開始し、2006 年 8 月には『在日ムスリム調査　関東大都市圏調査　第一次報告書』として成果を発表した。この調査と並行して、礼拝施設の調査も行い、『所内資料　「在日ムスリム調査」　―モスク調査の記録―』(2006 年 12 月）として配付限定で刊行した。またマレーシアにある ALEPS（東方政策元日本留学生同窓会）のメンバーを対象として、ムスリム・ネットワークをとらえるための調査を開始した。このように 2006 年度までの研究では、これまで量的に明らかではなかったムスリムの生活と宗教意識および礼拝施設の実態を捉えたが、具体的なムスリムの社会経済活動と宗教的ネットワークの役割に関する調査を進化させることが本研究を開始する背景となった。

２．研究の目的

本研究「在日ムスリムの社会経済的活動と宗教的ネットワークに関する調査研究」では、より広い視野から滞日ムスリム・モスク調査研究を継続することとした。主に中古車業者が集中している富山県射水市のムスリムに対するインタビュー調査とアンケート調査実施の企画を検討することと、さらにモスク建設ラッシュが続いている北海道から九州まで全国の状況をフィールド調査によって明らかにすること、またムスリムが抱えている問題を家族とコミュニティ、宗教的ネットワークに視点を置きながら明らかにすることを目的とした。

特に、将来の日本社会とムスリム・コミュニティとの交流や関係作りのための、基礎的な調査を行うことも今後の研究展開のために目的とした。

３．研究の方法

方法として採用したのは、従来通り、インタビュー調査とアンケート調査の２つの質的、量的調査である。これらを有機的に組み合わせて、滞日ムスリムの家族やコミュニティの状況を総合的に把握することを意図した。また、礼拝施設の建設ラッシュが続き、札幌、仙台、岐阜、別府、福岡など、地方の主要都市に新設モスクが続々と誕生した。2006 年から 2009 年にかけて、約２０カ所が新設され、2009 年 3 月末現在で、全国およそ 60 カ所にモスクが現存している。これらについては、観察調査も方法として採用して、研究を実施した。これらの研究成果については、いずれも調査報告書として広く頒布することとしており、学術研究にとどまらない調査研究として実施してきた。

さらに本研究では、第１回モスク代表者会議を開催して、各地のムスリムによる活動

の現状や日本のムスリム・コミュニティの将来構想に関する情報収集も研究の一環として採用した。

４．研究成果

先行するわれわれの「在日ムスリム調査」（2005-2006 年度）では、滞日ムスリムの特徴として、学生として短期滞在する者が多いが、滞日年数 10 年以上の人も 2 割を超え定住化の傾向が窺えた。週１回以上モスクに行く人が半数を超え、日本人の友人も 10 人以上いる人が半数であり、日本社会に多くが適応し、生活満足度も比較的高いこと（80%が満足）が調査結果からは明らかであった。2007 年度からの２年間に、まず滞日経験を有するムスリム調査の報告、およびムスリムの子ども教育調査を行ない、先行する調査結果と重ねてみると、滞日時の日本人友人との交流や日本社会での高い生活満足度が同様に語られており、滞日ムスリム個人あるいはムスリム家族としての生活も同様に安定していることが窺えた。したがって滞日ムスリムは日本社会に適応し、生活満足度が比較的高く生活基盤も安定してきたと考えられることから、滞日ムスリム・コミュニティが成熟期に入りつつあると言うのが、われわれの研究から明らかとなった。

これらと並行して北海道（札幌市と小樽市）から九州（福岡市と別府市）までの各地のモスク調査を継続し、礼拝施設の記録報告書第１巻を 2008 年に刊行し、第２巻は 2009 年度前半に刊行する予定であることも地道な調査の成果である。

既述のように、全国各地にモスクも 60 カ所近くが設立され、ムスリム・コミュニティは、ここ 20 年程の間に急速に展開し、日々そのプレゼンスは高まっている。そしてそれと呼応するように、生活に根ざした問題群がムスリム、研究者らにより提出されてきた。子どもの教育・墓地・その他日本社会とのかかわり等など、今後乗り越えなければならない課題は多い。前述のモスク代表者会議では、具体的な取り組みが提示され、イスラームとの共生を考えるうえで大いに参考になる意見もあり、このような問題を解決していく方向性についても議論が及んだ。多くの代表者からは、「現在は、各モスクやコミュニティが個別に問題と向き合っており、情報の共有や協働があまり活発ではない状況がある」との意見が提示され、「全国レベルでのモスク・ネットワークの確立が急務である」こと、「日本の地域社会との相互理解・協働が不可欠である」ことなどが確認された。また、「とかく外国人ムスリムが注目されているが、日本人ムスリムが、ムスリム・コミュニティ全体の先頭に立って活動して欲しい」との要望も聞かれた。

全国のモスク代表者が一堂に会した会議は、日本では初の試みであったが、滞日ムスリム間の交流と今後の滞日ムスリム・コミュニティと日本社会との交流や「共生」という今後の研究展開からみても大きな成果があった。

これまでの調査経過において、各地のモスクを訪問することが重なり、ムスリムとのネットワークも構築できたことが、上記のようなモスク代表者会議の開催実現に寄与したことは言うまでもない。また、研究期間後のことになるが、2009 年３月に完工し翌月に開所式を行った福岡マスジド（モスク）では、開所式における講演を依頼され、将来における日本社会とムスリム・コミュニティとの間の交流や関係づくりについて、出席したムスリムや日本人地域住民に対して、これまでの調査研究から浮かび上がってきたことを踏まえて発表する機会が提供されたことも記

しておきたい。

以上に述べてきた通り、国内外において、滞日ムスリム調査の統計的調査やモスク調査は看過されてきた分野であるが、本研究によって現状を把握することが出来たこと、モスク代表者会議の開催を経て、さらに将来の課題が明確化されてきたこと、各地のムスリムとのラポール形成は大きな成果である。2009 年度からの科研費補助金助成研究では、日本社会とムスリム・コミュニティを課題の中心に据えて研究を進めることになろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）
1.店田廣文、滞日ムスリムと日本のモスク調査、歴史と地理・世界史の研究、通巻第 621 号、57-61、2009 年、査読無し
2.TANADA Hirofumi, Islamic Studies in Wartime Japan: An Analysis of Historical Materials of the Greater Japan Muslim League, Annals of Japan Association for Middle East Studies,23-2,215-236、査読あり
3.KOJIMA Hiroshi, L'augumentation rapid de population musulmane au Japon : une dynamique démographique,” Association Internationale des Démographes de Langue Française (AIDELF) (éd.), *Les migrations internationales : observation, analyse et perspectives*, Paris : AIDELF/PUF, 433-439,2007、査読無し

〔学会発表〕（計 10 件）
1.店田廣文、外国人イスラーム教徒--アンケート調査の結果から、日本中東学会公開シンポジウム、2008/10/25、神戸国際会館
2.TANADA Hirofumi, Workshop on Information Telecommunication Network Society of Islam and its Modernization in Japan: A Case Study on ALEPS Members Workshop on Information Telecommunication Technology and Muslim Society in Malaysia and Japan,2008/8/29 University of Malaya
3.店田廣文、首都圏における在日アジア系ムスリム調査、イスラーム地域研究公開研究会、2008/8/8、京都産業大学
4.店田廣文、在日ムスリム学生の信仰と生活、日本中東学会第 23 回年次大会、2007/5/13、東北大学
5.小島宏、在日ムスリムにおける就業行動の規定要因、第 81 回日本社会学会、2008/11/24、東北大学
6.KOJIMA Hiroshi,Determinants of Religious Beliefs and Practices of Muslim Migrants in Tokyo Metropolitan Area, First ISA Forum of Sociology,2008/9/7, Barcelona, Spain
7.小島宏、在日ムスリムにおける配偶関係の規定要因、日本人口学会第 60 回大会、2008/6/7, 日本女子大学
8.小島宏、在日ムスリムにおける宗教実践の規定要因、日本中東学会第 24 回年次大会、2008/5/29、千葉大学
9.小島宏、在日ムスリム人口の最新推計、イスラーム地域研究公開研究会、2008/8/8、京都産業大学
10.小島宏、有配偶の外国人「ムスリム」男性とその妻の労働供給―2000 年国勢調査個票の分析―、日本中東学会第 23 回年次大会、2008/5/13、東北大学

〔図書〕（計 2 件）
1.Ng Sor Tho, Sia Bik Kai, Okai Hirofumi, Tanada Hirofumi Social and Support Network of Muslim Students in Japan: A Case Study on ALEPS Members、早稲田大学人間科学学術院　アジア社会論研究室、41pp, 2008
2.店田廣文、岡井宏文,日本のモスク調査１イスラーム礼拝施設の調査記録,早稲田大学人間科学学術院アジア社会論研究室, 73pp, 2008

〔その他〕
滞日ムスリム調査に関するホームページを 2009 年４月 8 日に開設して、これまでの調査報告書や、全国各地のモスク調査の記録のうち、モスク概観や観察調査で収集した写真を調査済みのモスクについて掲載した。
http://imemgs.com/

６．研究組織
(1)研究代表者
店田　廣文(TANADA HIROFUMI)
早稲田大学・人間科学学術院・教授
研究者番号：20197502
(2)研究分担者
なし
(3)連携研究者
小島　宏(KOJIMA HIROSHI)
早稲田大学・社会科学総合学術院・教授
研究者番号：90344241

村田　久(MURATA HISASHI)
東京大学・総括プロジェクト機構・助教
研究者番号：80350445